

ねじりはちまき

6月 水無月<sup>みなづき</sup> 芒種 夏至の月になりました。

6月1日衣替え、5日芒種、10日梅雨、16日父の日、21日夏至となっています。

衣替えは6月と10月(沖縄では5月と11月)に学校や役所などでは制服が入れ替わります。一般家庭においてはその年の季候にあわせて適当な日に行われているようです。江戸時代になると木綿の普及によって衣類の多様化したことから幕府は武士に対して年4回の衣替えを定めました。この風習は後に庶民の間にも浸透し、春と秋は袷(あわせ)と言う裏地のついた着物、夏は裏の無い帷子(かたびら)、冬は防寒用に表地と裏地の間に綿の入った『綿入れ』を着るようになりました。さらに、明治時代に入って洋装が増えたのを機に6月1日と10月1日を衣替えの日として、この習慣が今日まで伝わっています。季節柄お体には十分ご留意下さい。

幸田常一

\*\*\*\*\*

<会社近況>

ただいま、郡山市や日和田、本宮市の現場をお世話になっております。

梅雨の時期ですので、安全な作業を心がけて進めております。

<住まいの点検>梅雨時期のお家のお手入れ

(1) 除湿 雨の日が多く湿度が高い梅雨時期は、カビが生えやすくなります。

晴れ間には換気をして押し入れやふすまに風を通しましょう。

(2) 屋根、雨樋 雨漏りの点検や、雨樋の水はけの状態を確認しましょう。

枯れ葉などの詰まりで水はけが悪くなることもあります。

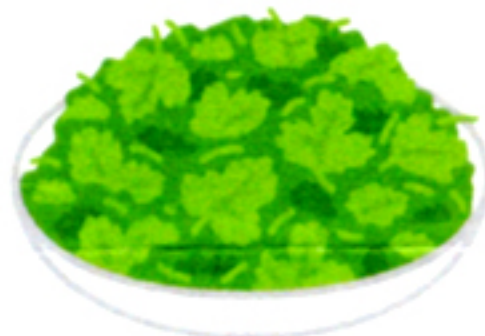
定期的なお掃除を！

(3) 網戸 夏を迎える前にほつれ、穴あきなどの点検をしておくで安心です。

\*\*\*\*\*

6月 旬な食材<青じそ>

夏に爽やかな青じそが、いつもの料理をサッパリと変化させてくれます。青じそは、ミネラル、βカロテン、ビタミンB2などが豊富な食材です。中でもビタミンKとEが豊富だそうで、貧血や骨粗しょう症を防ぐ効果も期待できるそうです。他にも、肩こり腰痛、血行を改善し効果的に作用するようです。スッキリした香味が食欲増進につながりますので、蒸し暑い季節にはぴったりですね。青じそのペペロンチーノや、キュウリに巻いて浅漬けなども美味しそうです。そうめんの薬味にも最適ですので、ぜひ！



\*\*\*\*\*

令和6年6月5日

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田 久美

〒969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>梅雨に入り、スッキリしない日が続いています。洗濯物が乾きにくく困りますね。からっと晴れる日が待ち遠しいです。

(ほしの)

人間と動物って違うの？ I

今回は何について書こうかと思っていたら、ある雑誌にサイエンスライターの細川博昭さんの対談記事が載っていたのでそれを紹介しながら、人間と動物の間柄（類似点）について考えて見たいと思う。細川さんは、動物の中でも「鳥」を取り上げて、鳥の生態から分かったのは、人間だけが特別の生きものでないという考えに至ったことを強調されている。それでは、順を追って紹介していきたいと思う。

①鳥が人間より劣るというのは偏見である。

- ・鳥の声が聞こえてきても、風の音や小川のせせらぎなどと同じように、自然の中にある環境音にすぎないと思っている。
- ・科学が進み、人間が進歩的な暮らしをするようになって、鳥はきれいな羽毛や姿をもち、美しいさえずりで癒しを与えてくれる存在であるものの、生き物としては人間よりはるかに劣り、虫などのように、知性も感情もない下等な生き物として見下してきた傾向がある。
- ・さえずりや求愛の行動なども、本能に従うだけで、鳥には高度な脳活動などないと信じられてきた。世界で使われている、「birdbrain（鳥の脳）＝頭が悪い、トンマ」という言葉はその象徴である。

②鳥は人間と似た特質を持っている。

- ・人間を人間にしている特質としては、二本足で立って、自分の手で道具を作って使ったり、音声でコミュニケーションしたりしているということが挙げられる。
- ・音声でコミュニケーションをする動物としては、ゾウやイルカ、クジラがあるが、人間に近い哺乳類であるチンパンジーやゴリラにはそうした能力がない。
- ・稀有な人間の特質としては、文法に基づいた言語を持ち、豊かな感情や複雑なことを考えられる頭脳を持っている、娯楽として遊ぶことができる、発達した海馬が空間を把握する、芸術的な感性を持っているといったことが挙げられる。
- ・鳥の場合、一種類の鳥がこれらの能力をすべて持っているわけではないが、鳥類全体でみると、先に挙げた人間の特質のすべてを満たしているのである。
- ・こうしたことから、鳥と人間は似ており、「人間だけが特別の存在ではない」と私は考えている。人類は、地球生物が進化する過程で生まれた一つの種に過ぎないことを、その存在を通して鳥たちが教えてくれているように思える。

③道具を使う鳥類は多い、目的に沿って道具を作る鳥も

- ・動物では、チンパンジーが石や木の枝を道具としてよく知られている。ゾウも鼻で石や木の切片を掴んで投げたり、ラッコは腹の上で石を使って貝を割って食べたりする。しかし、道具を使い何かをする哺乳類は余り多くない。
- ・それに対して、道具を使うことができる鳥類は二桁を超え、26種に上ると報告している論文もあるくらいである。
- ・鳥が道具を使うのは何のためかという点、主に食料を得るためだが、中には縄張りの主張だったり、メスへのアピールに使う鳥もいる。例えば、ニューギニア島などのジャングルに棲むヤシオウムのオスは、木の切れ端を足に持って、大きな生木や枯れ枝に打ち付けるドラミングをする。その音は周囲に響き渡り、自分のいる場所を、同じ種類のメスやライバルのオスに伝える。日本のハシボソガラスは、自動車が通る道で、タイヤが通過するあたりにクルミを置き、近くの木枝などで待機して、車に轆かれてクルミが割れたら、降りてきて割れた中身を食べるということをする。それを繰り返すのである。

④目的に沿って道具を作る鳥もいる

- ・南ニューカレドニア島に棲むカレドニアカラスは、脳の重さが7・6gとハシボソガラスよりひと回り小さな脳であるにもかかわらず、道具を自分で作り、使いこなす能力を持っている。例えば、カレドニアカラスは、二股に分かれた木の枝をくちばしで折り取り、さらに二股の片側を短く折り取って、葉をきれいに取り去る。それによって枝はフック状（鉤状）の棒になり、それを穴が空いた枯れ木の中に差し入れ、カマキリの幼虫をひっかけて引きずり出して食べるのである。

⑤「貯食」の習性を持つカラスルイ〜鳥にもある記憶を司る「海馬」

- ・町中でよく見かけるハシボソガラスやハシボソガラスなどのカラス類は、「貯食」という習性を持っている。地面のくぼみ、小石の下、屋根などの隙間、落ち葉の下などに、他の仲間に見つからないように食べ物を隠し、隠すところを仲間に見られた時には隠し直すということもする。隠し場所として、線路の敷地内にある碎石や枕木の下を選んだ例もある（線路の上に何回も置き石された事件）。動物も隠した食べ物を食べる時、腐りやすいものとそうでないものを学習して覚え、痛みやすいものから先に取り出して食べるカラスもいることが分かっている。

- ・もっとすごいのが、森の中に棲む同じカラス科のカケスである。カケスは冬に備え、秋のうちに食料となるドングリを集め、自分の行動範囲の中の様々な場所に埋めるが、最大で四千カ所もの隠し場所を正確に記憶していると言われる。冬になって地面が雪に覆われても、周りの木や岩など目印になるものを頼りに、隠し場所を思い出して必要な食料を手に入れる。特筆すべきは、カケスがひと冬を生き抜くために必要な食べ物の量を把握した上で、その量プラスアルファの食料を集めて隠すということで、カケスの貯食は、言うなればこれから数ヵ月先の未来を念頭に置いた上での”計画的戦略”だということ。そしてそれは、隠し場所を覚えているという高い記憶能力があつてこそ初めてできることである。
- ・鳥に記憶能力があるということは、鳥にも記憶を司る海馬があるということである。道筋や場所といった空間的な記憶の学習を行うなど、人間に近い機能をもっていることが分かっている。カラス科の鳥が空間記憶をもとに貯食ができるのも、伝書鳩が飛行ルートをしっかりと覚えられるのも、海馬があつてこそである。人間の海馬は、何もしていないでいると、年に1~2%ずつ縮小し、それに伴って一般的な記憶能力も空間の記憶能力も衰えるが、鳥も同じで、捕獲されてケージに入れられた野生のコガラが、わずか1ヵ月で2割以上も海馬が縮小したという報告もある。

#### ⑥体に対して占める脳重が人間より大きいジュウシマツ

- ・コンパクトな鳥の体からすると脳は大きく、例えばジュウシマツの場合、体重がおおよそ15gだが、脳重は0.5グラムほどで、脳の体重に対する比率は3.3%ほどである。一方、人間の脳重は体重のおおよそ45分の1で約2.2%だから、体に対して脳が占める割合は、ジュウシマツの方が人間より大きい。
- ・道具を使う鳥が哺乳類よりも多いという事実は、鳥の脳の働きの高さを示すものである。道具を使いこなすには、「その道具を使った結果どうなるのか」という未来のイメージを持つことが重要になるし、さらに道具を自作する鳥に至っては、何段階も先のイメージを持ってその作業に取り組みなければならない。文字通り、頭脳をフル稼働しなければできないことで、鳥がバカであるならばできるはずがない。これは、鳥は人間のような言語を使った思考とは異なる形の思考を持ち、それを活用しながら生きていくことを意味しており、人間の思考だけが唯一のものでないことを教えてくれているように思える。

#### ⑦脳の性能の高さを示す~カラス、インコやオウムの遊び

- ・遊びは人間らしさを表わすもの一つだが、鳥もまた遊ぶ。特に知能が高く、好奇心も強いカラスやインコ、オウムはよく遊び、その遊びの中には、人間の子どもの遊びと酷似しているところがある。先ずカラスだが、公園で子どもが滑り台で遊ぶのを見て興味をもち、自分でも滑ったり、雪が積もった屋根や山の斜面を滑り降りたり、板切れやダンボールの切れ端を見つけて、ソリに乗るように滑り降りたりする遊びをする。インコやオウムの遊びは(人間のもとで暮らす)、ティッシュペーパーを箱から抜き出して散らかしたり、巻かれたトイレットペーパーを転がして床に広げたりと人間の幼児や犬が面白がってやるような遊びはだいたいやる。

今回は以上で終わります。いかがだったでしょうか。次回は続きを紹介します。

初夏の 吾妻連峰 一切経山・東吾妻山  
那須連峰 甲子山・旭岳（赤崩山）

（百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、う百：うつくしま百名山、カッコ内の数字は標高）

【今回登った山】

- 吾妻連峰(5/3) 一切経山（いっさいきょうざん、1949m）  
東吾妻山（ひがしあづまやま、1975m）  
那須連峰(5/25) 甲子山（う百、かしざん、かшыま、1549m）  
旭岳（あさひだけ、別名 赤崩山 あかくずれやま 1835m）

5月3日（金）吾妻連峰

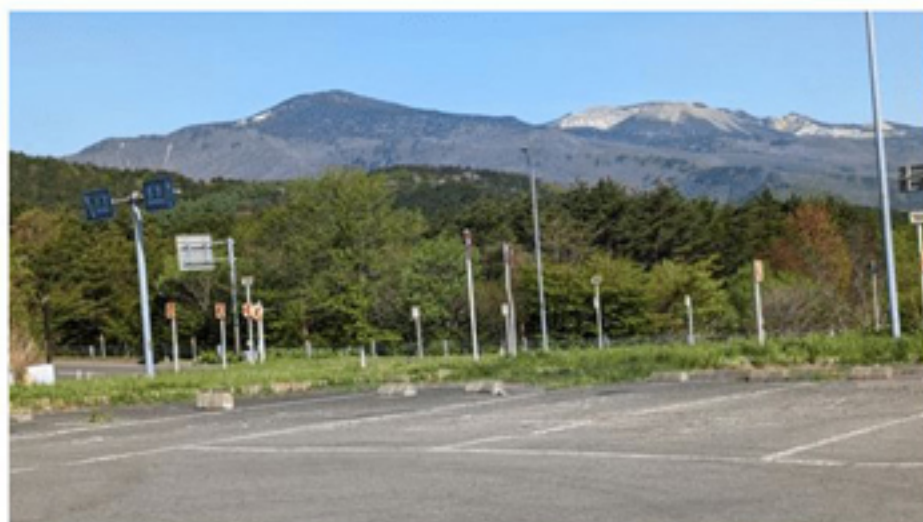
ゴールデンウィーク後半初日、好天に誘われて、久しぶりに一切経山とできれば東吾妻山に登ることにした。

「道の駅つちゆ」からは雲一つない吾妻連峰が望めた（写真上）。左手前が高山（1805m）、右奥が噴煙上げる一切経山。東吾妻山は高山の陰で見えない。

浄土平駐車場は登山者や、吾妻小富士（1707m）の観光客でほぼ満杯だった。

10時、一切経山に向けて出発。ほとんど雪はなかったが窪地には残雪があった。アイゼン等は必要なかった（写真下左、中）。

「空気大感謝塔」の所で休む登山者（写真下右）。



一切経山山頂着 11:20。

## 山頂からの眺望

魔女の瞳と家形山（1877m）（写真上）。



右奥 吾妻連峰稜線、中央奥に磐梯山、左側にこれから登る東吾妻山、手前は蓬萊山（写真下）。



山頂には大勢の人が休んでいたが、自分は休まず下山。11：30。



吾妻小富士（1707m）を見下ろす。右の黒い山は高山その奥は安達太良連峰（写真左）。



右上に鎌沼、左奥の黒い山が東吾妻山、鎌沼を右側から回り込んで東吾妻山登山口分岐へ向かうことにする（写真左）。



酸ガ平避難小屋上部の残雪（写真左）。



鎌沼への分岐（写真左）。



鎌沼（写真左）。



滑ると鎌沼へドボーン（写真左）。

東吾妻山への登山道分岐手前の木道（写真下左）。



木道から山に入り込んだ所の雪の上にシートを敷き昼食休憩、12：48。

4/13 西大巓でアイゼンをなくしたのでチェーンスパイクを着けて13：10 出発（今回は初使用）。

ピンクのテープを目印にオオシラビソ（アオモリトドマツ）の木や枝の間を縫って登っ

て行く。何度か踏み抜く（写真下右）。





東吾妻山山頂直下の階段（写真左）。雪がなく手前でスパイクを脱ぐ。山頂着 14 : 10。

#### 山頂からの眺望

中央は中吾妻山（1931m）、4月に登った西大巓（1982m）と西吾妻山（百 2035m）が右奥に連なって見える（写真上右）。



中吾妻山の左奥には磐梯山（百 1816m）、それらの間に上から檜原湖、小野川湖、秋元湖（写真左）。



少し後から登ってきた、田村市からの中年のご夫妻と写真を撮りあう（写真左）。



一切経山を振り返る（写真左）。中央が鎌沼。

14:30 下山開始、樹林帯に入ったところでチェーンスパイクを装着。



東吾妻山から木道分岐を経て下山中、一切経山を見上げる（写真左）。山の右下方に噴煙が立ち昇っている。

16 時、無事下山。まだ多くの車が残っていた。帰る準備をしていたらスピーカーの放送で「17 時にスカイラインが閉鎖されるのでご注意ください」と呼びかけがあった。



「道の駅つちゆ」を經由して帰宅する。素晴らしい天候に恵まれた、ゴールデンウィークの名にふさわしい一日だった。

#### 5 月 25 日（土）那須連峰

2007 年 7 月下旬に近所の人達 7 人と、西郷村の赤面山スキー場から赤面山（う百、1701m）、三本槍岳（百 1917m、那須連峰最高峰）に登り、甲子山を通

過して甲子温泉まで縦走したことがある。その時は天候が悪く見晴らしも良くなく、疲れてもいた。また那須連峰の中では標高が低いこともあり、甲子山は地味な山との印象だった。

今回は、山仲間から甲子山の先の旭岳（別名赤崩山）に登ったという情報を得た。旭岳は別名の通り、赤土の崩れやすい山で、YAMAP の地図には実線でなく破線で表示されている。破線は難路という意味で、1994 年版の昭文社の地図では破線の表示もない。藪漕ぎもあるとのこと。でも結構登られていてロープなども設置されているとのこと。

自宅を 5:15 出発、東北道白河 IC、国道 289 号甲子道路経由で甲子温泉を目



指す。「座頭ころばし展望台」からこれから登ろうとする甲子山、旭岳方面を望む（写真左）。写真中央の手前のピークが甲子山、左奥のピークが旭岳。甲子山の方が高く見える。美しい裾をひいている。天気は上々だ。緑が濃くなってきている。

標識に従い安心坂トンネルを出てすぐに左折して下って行く。6:20、大黒屋（※）奥の駐車場まで行かずに、手前下り坂途中の登山者用駐車場に車を止める。仮設のトイレが設置されている。準備し 6:40 出発、坂を下り大黒屋の前を通り登山口に至る。



（※）大黒屋：旅館、日光国立公園/日本秘湯を守る会会員/元湯甲子温泉

阿武隈川本流の源流、白水沢の三段砂防ダム（写真左）を眺めながら橋を渡り山に入っていく。三段の砂防ダムは珍しい、初めて見た。

標識が設置されていて迷う心配はない（写真下）。



ロープのある険しい所もあるが（写真上左）、急傾斜面の山をジグザグに道が切っており、緩やかな勾配になっていて歩きやすい。若者のペアが追い越していく。稜線に出るとさらに緩やかになる。

猿ヶ鼻に8時前に着き休憩する（写真上右）。ここは甲子トンネルの真上に位置するようだ。緩やかに歩いて行くと、樹間から右手北の方角に大白森山（う百、1642m、）の大きな山塊が見える。



甲子山分岐点（写真下左）で休んでいると若者二人がやって来て、「寒いねー」と声を掛け合う。大白森山を登ってから、帰途に甲子山に登るとのこと。

ここからは、少し急なほぼまっすぐな登りになり、ロープとクサリの所もある。



9時前甲子山山頂着。北側の見晴らしが良い（写真下右）。右が大白森山へ連なる稜線、標識の左が二岐山（○、東北百名山、う百、1544m）。



自撮りする（写真上左）。残念ながら正面（南西方向）の旭岳（写真上右）、左手、南の三本槍岳は上部が雲に覆われ風も強い。途中で引き返しても良い、行けるところまで行っ

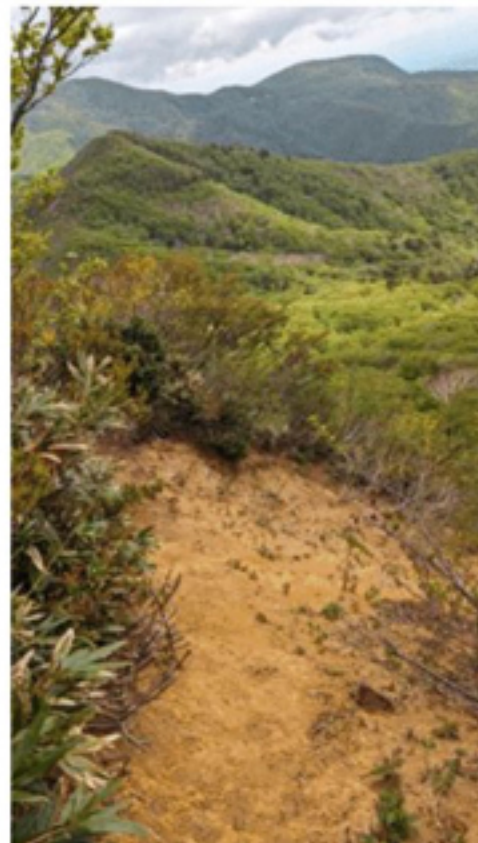


てみようと思い、坊主沼方向に下る。

10分ほど下ると分岐があり標識には、甲子旭岳



の旧登山道は通行不能のバツ印が書いてあった。風は強いが登山道は踏み込まれているので進んで行く。



ムラサキヤシオ（アカヤシオ？）の木が風で大きくしなるように揺れている（写真下左）。

がけ地の赤崩れた山肌の端を枝につかまりながら慎重に通る。滑れば滑落だ（写真下右、振り返って）。

長いトラロープが張ってある所では、粘土質の土が滑り、ロープ片手に枝や草につかまってよじ登って行く（写真上左）。下山時ここでシリセード。



樹林帯を抜ける手前にもムラサキヤシオが咲いていた。山頂にはガスがかかっている（写真上右）。



別名赤崩山の由来を実感する（写真下左、右）

特にひどい藪漕ぎはなかった。最近の入山者が多くよく歩かれているのだろう。



苦闘している間にしだいに山頂に近づき、強い風の間隔が遠くなってきた。奇跡的だ。山では良い方向にも何が起こるか分からない。

山頂直下のシャクナゲ（写真上左）。すぐ近くでウグイスの鳴き声がする。



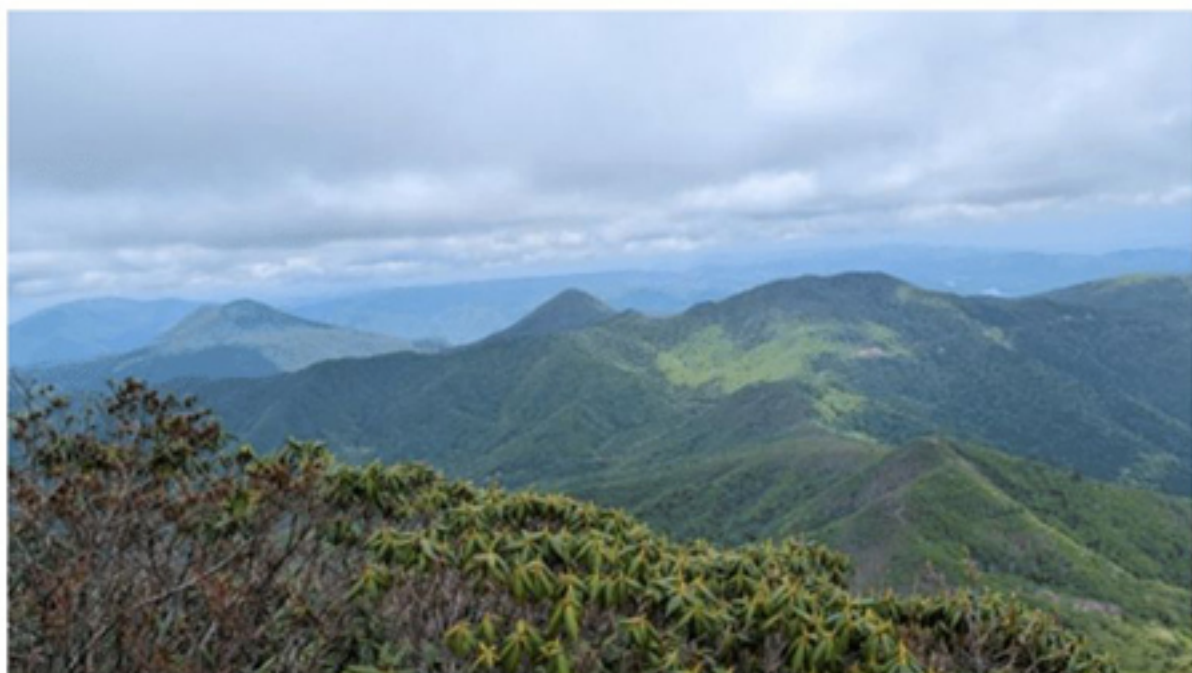
10:45 山頂着。山頂は狭く、直径4~5m位か。北西方面は樹木が育ち景色は樹間越に見えるだけ。「黒羽山の会」手製の山頂標識が地面の石の上に置かれていた（写真上右）。

風は弱くなってきたが流れる雲は早い。雲に覆われていた南方の三本槍岳方面が見えてきた（写真中）。



北には二岐山（左側）、中央の姿の良い三角錐の山が小白森山、その右手が大白森山から鎌房山。甲子山は手前、写真右下。登山道も見える。

写真下方、シャクナゲもミネサクラも終わっていた。



景色を眺めながらパンをかじる。じっとしていると体が冷えてくる

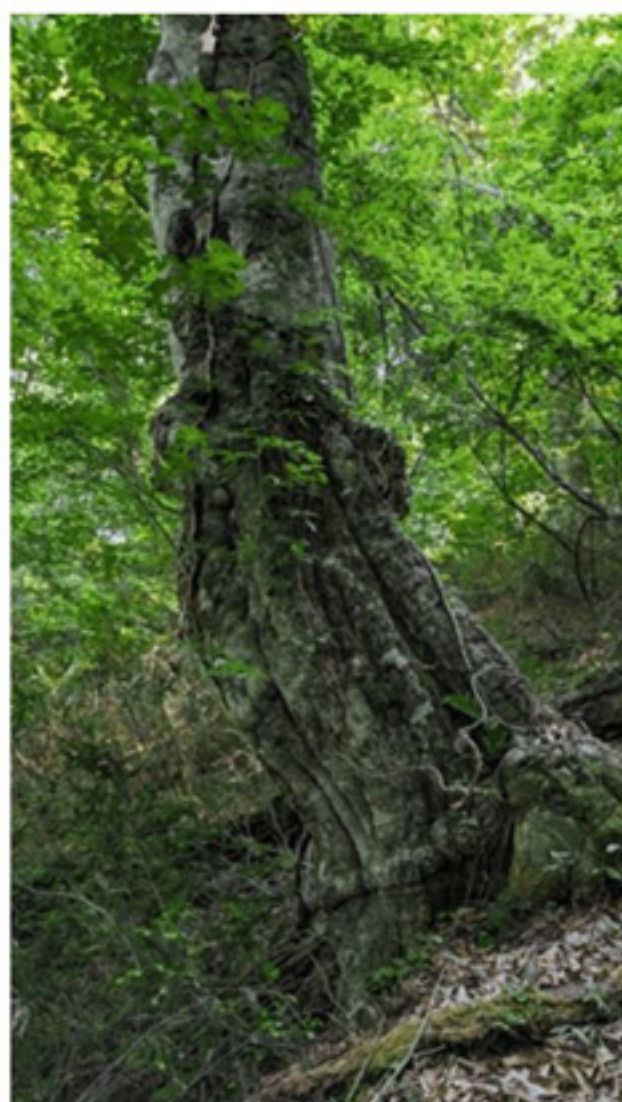
11:40 下山開始。約1時間の休憩だった。寒いわりに長く居た。

急なところは登りよりも下りが危ない。ロープ掴んで

いても滑って、お尻をついても止まらず3~4mシリセード（尻滑り）をし

てしまった。きれいにべったりと土が付いた。

甲子山に戻る手前からの旭岳の雄姿（写真上）。



甲子山、猿ヶ鼻経由で往路を戻る。ブナの大木があった（写真左）。

甲子温泉まで下らずに、右手の踏み跡を近道と思い下って行くと、甲子道路の甲子トンネルと甲子大橋の間の広い駐車場に出た。

これは登山の時、時間の短縮になると喜んだらそこは県が設置したもので「管理施設のため一般の方の駐車禁止」の看板が出ていた。ただ閉鎖はされていなかった。

甲子大橋を渡り安心坂トンネル手前を右に下り、駐車場に着く。14:35。

ゆったり、マイペースの甲子山、旭岳山行を無事終える。ズボンをはき替え出発する。

帰途、朝立ち寄った「座頭ころばし展望台」から那須連峰北部 旭岳・甲子山の美しい裾をひく山容を眺め、見納める。

令和6年6月 NO127 アンチ・エイジング 山旅遊人